「10 月度研修会/先端研」報告

修習技術者支援実行委員会　委員補佐
後藤 充弘　修習技術者(電気電子部門)

１．研修会概要

日　時　平成 26 年 10 月 11 日（土）
13:00～20:00
主　催　公益社団法人日本技術士会
修習技術者支援実行委員会
会　場　日本技術士会葺手第二ビル 5 階

２．研修会の内容

Ⅰ．研修会 司会	横井　弘文
開会挨拶 副委員長	13:00～13:05 高橋　裕二
講演１ 「忠実義務（利益相反）」	13:10～13:55
講師　技術士	田中　秀和　氏
講演２ 「説明責任」	13:55～14:40
講師　技術士	橋本　義平　氏
＜休憩＞	14:40～14:55
グループ討議	14:55～17:30
・討論結果の発表	
・講評	田中氏・橋本氏
まとめ	17:30～17:35
副委員長	高橋　裕二
Ⅱ．先端複合技術研究発表会	17:40～18:20
司会	横井　弘文
発表「アナログ入力液晶ディスプレイ～ディスプレイ信号とディスプレイ制御回路の概要～」	
修習技術者	蛭田　幸男　氏
Ⅲ．情報交流会	18:30～20:00

３．研修会の参加者

研修会の申込者は 25 名で、グループ討議参加者は 19 名であった。技術士、技術士補、JABEE 課程修了者/在籍者が各 1 名で、1 次試験合格者が 13 名であった。参加者年代では 40 代が最も多いものの、偏りは少なかった。部門は 7 部門には渡っているが、電気電子が 6 名と目立っている。居住地は神奈川が 6 名と多く、首都圏以外では静岡と愛知から各 1 名の参加があった。参加回数では「4～9 回目」が 9 名、「10 回以上」が 3 名でリピータが多いことを示している。講座を知ったきっかけはホームページとメール案内が多く、誘いを受けての人は無かった。受講動機は「修習の一環として」が 6 割強であった。

４．研修会状況について

今回の研修会は、与えられた事例についてグループ討議を行い、その内容を発表するものであった。また、発表に対して参加者からの意見・発言を募るとともに講師が講評を行った。

◆　１．講演１

田中講師は主に「利益相反」に関して説明した。技術士倫理綱領の第 5 条を参照し、機械学会倫理規定も参照した。導入として野球選手と試合の賭けに関する例を取り上げた。続いて、技術者に関する例に入った。個人的な繋がり、所属組織における利害関係、大学と企業の共同研究における学生の立場で架空の例を挙げた。さらに、福知山線列車脱線事故調査に係る情報漏洩等についての実例を挙げた。

写真 1：田中講師

◆　２．講演２

橋本講師は主に「説明責任」に関して説明した。「Liability」、「Responsibility」、「Accountability（説明責任)」の位置づけなど説明された。科学技術に関して、科学者や技術者と公衆にズレがある場合には技術者はその溝を埋める役割がある。説明責任は技術者のリーダーシップの重要要件でもあ

る等を挙げた。また、技術者倫理への向き合い方が技術士の価値を高めることにつながることを述べた。

写真 2：橋本講師

５．グループ討議

各班は、先着順に以下の案を選び、討議した。

1 班：使用材料の変更（創作事例）
2 班：JR 西日本、福知山線列車脱線事故調査に係る情報漏洩等について
3 班：学生が関連する利益相反（大学における利益相反問題）
4 班：危険な状況の報告義務（創作事例）
5 班：慰安婦報道検証と朝日新聞

田中講師より、アイスブレーク（自己紹介）、役割分担、フリーディスカッションの手順例が示され、多くの班がそれに従った。

写真 3：討論風景

６．討論結果の発表

各班とも模造紙 1、2 枚と付箋等を利用した資料を基に発表した。全員で発表を割り振った班やひとりの担当者が行った班があった。質問はそれぞれ 4 件程度あったが、5 班が選んだ事例に関しては技術的に論じにくいこともあり、意見提示に留まった。

写真 4：発表風景

７．講評

田中講師は有能な技術者ほど相反する立場になりやすいことに触れた。橋本講師は日頃から多様な意見を聞き事例を学ぶ姿勢の必要性に言及した。

８．まとめ

高橋副委員長が総括した。ケーススタディは技術者倫理を身に付けるのにとても役立つものである。また、技術士倫理綱領は技術者倫理を考える上での拠りどころになると述べた。

９．先端複合技術研究発表会

修習技術者（情報工学）である蛭田幸男氏が自身の業務経験から発表した。
タイトル：「アナログ入力液晶ディスプレイ～ディスプレイ信号とディスプレイ制御回路の概要～」

開発の背景から当時の課題、プロジェクトの成果、最近の動向など、盛りだくさんであった。そのため質疑応答は盛んであった。

１０．情報交流会

研修会及び先端研終了後、主催者、参加者による情報交流会を行った。研修会講師及び先端研発表者も参加し、それぞれが研修会や先端研での質疑応答で対応できなかった内容についても個別に話されていたようである。　以上